

会議記録

会議名	伊方町観光交流拠点施設整備工事住民説明会
会議年月日	平成30年9月14日(金) 18:00~18:56
場所	伊方町役場三崎支所 2階 多目的会議室
出席者	説明者：町長、副町長、産業課(4名) 総合政策課(2名)、朝日共販(株)(2名) 京・山口設計共同企業体 参加者：25名

2.あいさつ

町長：皆さん、こんばんは。皆さんお忙しいところを、また昼間お疲れのなかを、住民説明会にご出席をいただきましたことを、まず心から感謝を申し上げたいと思います。私も就任をさせていただいて、この10月で丸2年になるわけでございます。一昨年就任して、まず最初にいただいた言葉が、議会でも質問がでたわけなんですけども、はなはなの活用、今のままではいけないのではないか、レストランなどを作って賑わいのある施設に拡充をなさいたいというご意見をたくさん頂戴致しました。そういった意見を受けて、どういったふうに進めたらいいのかということを中心に内部で協議いたしまして、まずどういうニーズがあるのかをつかみたいということで、アンケート調査を行わせていただきました。たいへん皆様方にもお世話になったわけでございます。その結果をうけて、やはりこれは思い切って伊方の玄関口にふさわしい施設に作り上げようじゃないかというふうな思いに至りまして、拡充を決意したわけでございます。この事業を進めていくにあたりまして、広く皆さんの知恵をかりたいということで、基本的な考え方としては、建物は町で建てて、運営は民間にお任せをしよう、そのかわり、その運営についてはもし赤字になっても町からは補填しないその事業者で運営をやってもらいたいというふうな基本的な考え方を、まず決めさせていただいた。そういった基本的な考え方のなかで、設計事業者そして事業協力者というかたちで公募をいたしまして、本日に至っているわけでございます。幸いなことに数社手を挙げていただいて朝日共販さんが事業協力者として現在協力をいただいております。本年度設計をおこないまして、来年度工事をして32年の春にはオープンをしたいなというふうな基本的な考え方をもっております。その中で今、基本計画が出来上がりましたので、まずアンケートを取らせていただいた皆さん、そしてなによりも三崎地区の皆さん方のご意見を伺わせてもらいたい、そんな思いで本日の住民説明会を開かせていただいたわけでございます。このあと、それぞれ説明があろうかと思っております。ぜひひとつ皆さんの忌憚のないご意見を伺わせていただきたいと思います。何よりも、ハコモノはこちらで一所懸命考えてつくってまいります。地元の皆さん方の協力がなければ、このような施設の成功はありえないわけでございますので、ぜひ地元の皆さん方のご協力をいただいて、本当の意味での息のある施設に作り上げたいと思っておりますので、本日の説明会もよろしく願い申し上げまして、開会にあたりましてのご挨拶にかえさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

3.説明

- ①伊方町観光交流拠点施設整備工事設計概要について、産業課長より説明
- ②伊方町地域エネルギービジョン関連整備概要について、総合政策課 政策秘書室長より説明

4.質疑応答

住民A：さだみさき夢希会 Aと申します。一問一答という形でよろしいですか？既存の施設はどのようになされますか？

産業課長：既存の施設、特に直売所の関係だと思いますが、直売所は今回新たな施設の一階にできますので、現在、テナント方式で出店スペースということで、これからあたるかと考えております。

住民A：テナントのカテゴリーは決まっているのですか？もしカテゴリーが決まっていなければ、例えば目玉の一つとして初期投資を伊方町がするので、指定管理料は支払わないということを目玉にしてるんじゃないですか。そしたら、テナントに入る業者が、例えばこのような厨房がほしいという要望を出した場合に、それは全額町が出してくれるんでしょうか？例えば僕がパン屋をやりますよというような話をした時に、厨房施設に1000万かかりますけど、オープンとかその他を伊方町にもってもらえますか？というような話です。

産業課長：テナント方式で考えていたものなので、出店者が自分でやっていただくという風なことを想定していたので、町が出すということは想定していなかったが、商工会の補助制度や他の制度があると思うのでそういったものも活用をしていただき、町が出すということは想定していない。

住民A：基本はテナントに入りたいといった事業者が出すということですね。テナントに入りたい者の、決定は伊方町が決めるのか？事業者が決めるのか？

産業課長：運営に関しましては事業協力者にお任せいたしますので、協力者との話し合いになるうかと思えます。

住民A：わかりました。あと、はなはなに商品を入れさせていただいている一事業者として、今まで堤防の関係で、動線のことなんですけどね、フェリーを出て、はなはな、目の前にあるから、看板を設置してあるんですよ。で、「ここになんかあるんやな」というのがあって、駐車場が店の目の前にあるので、お客さんは行ってたんですけど、フェリーからの出口をふさいでる工事期間があって、その時は閑古鳥で、返品ばかりだったんですよ。で、この設計図をみてみたら、駐在所のほうに駐車場があるので、フェリーのお客さんを逃さないために、駐車場は、フェリーを出たところから見えるようにあったほうが集客がしやすいんじゃないかなと思うんです。もうひとつは、よく、都会のほうではフェリー乗り場から駅までのアクセスとか雨が降っても天井がついててぬれずに行けたりするんですよ。雨が降ってたり風が強いことが多いので、お客さんが雨が降ったら車からでないということがあるので、動線を考えたときに、屋根付きの通路を作るとか、そういう動線の意図することを教えていただきたい。

産業課長：駐車場の位置の関係でございますが、おっしゃることはよくわかります。まず考えたのは、フェリーから降りて、まずは賑わいを見せる、で、おまつり広場から1階が物産展で2階部分がレストランというような感じでございますので、まずは建物の賑わいを見せるというところに主眼をおきまして、フェリーから降りた客が、「あっ」と思いながら、左手から、前もありますから、左手に入ってくださいというような動線を考えて、このような配置にしております。それと、屋根付

きの通路でございますが、フェリー客だと思っておりますが、今の直売所の真ん前くらいに階段があるかと思っておりますが、ここら辺は九四フェリーさんにご相談はしたが、今車がでるところは人を通らするのは危ないので、人は通れませんとのことですので、できるとするならば、階段があるところと直角に施設を結ぶというラインになろうかと思っておりますが、今のところ屋根付きの通路は考えていないというところであります。

住民A：今までの何年かの経験から雨が降ったり場所がふさがったりすると客足が遠のくことがあったので、是非とも町でつけていただいたらありがたいなと思います。あと、総合政策と産業で課をまたいで一緒に連携してやってるじゃないですか、その横の連携はすごくいいなと思うのですが、今、概算 10 億の建設費といわれたのは、昨年からの総合政策のほうでエネルギービジョンのアンケートなどもされていたのですが、内訳としては、そのエネルギー ZEB の方も含めて 10 億ということですか？それとは別ですか？

産業課長：今のところ ZEB も含めて 10 億前後ということで考えている。

住民A：昨年からのエネルギー関係のやつは、原子力関係、エネ庁さんがしてたと思うのですが、ZEB の方はエネ庁の補助金で全額まかなえるのか？

総合政策課長：先ほど説明をしたわけですが、補助金の枠がございますので申請後の採択の状況によりまして、今の計画よりも変更があったり、状況によっては規模の変更がある場合もございますので、その辺はご了解いただきたいと思います。

住民A：10 億というのは、全部自己財源というのではなく、補助もいくらかは入るという認識でよろしかったですか？

産業課長：ZEB の関係は国の謳い文句が 10/10 ということで、とりあえずそれにむかってチャレンジしていきます。その他の財源につきましては、廃炉交付金と電源立地交付金といったものを組み合わせてなるべく町の持ち出しを少なくしたいと考えております。

住民A：わかりました。私からは以上です。ありがとうございました。

住民B：今 ZEB の関係で、補助金が 10/10 の可能性があるということですね。そうすると総予算 10 億のなかで ZEB が 10/10、町長さん 10 億そのものをこの施設に全部使えるということですか？

町長：ZEB というのはエネルギーの関係だけで、補助に使えるのは、地熱発電と太陽光発電、その二つの部分だけです。

住民B：じゃあその補助金の額によってこの 10 億がどのくらいこの施設にあてられるかということ、まだ決定していないということですか？じゃあ、この施設そのものの予算というのは、まあ、この設計である程度はわかっているだろうと思うんですけど、まだ最終的な決定はまだということなんですかね？

町長：どこまで認めてもらえるか、廃炉交付金も使いますので、まあだいたい建物が今のところ 7 億程度、そのうちの 3、4 億が交付金でまかなえるかなと、ですから自主財源が 3、4 億くらいかなと、まあ感触としてですけど。

住民B：町の予算の関係もありますので、予算もキーポイントになってくると思うんですけど、予算との兼ね合いであって、別に無理は言わないんですよ。ただ、先ほど A の質問にもあったんですけど、フェリーの関係なんですけど、さきほど説明の中で、現在のフェリーから降りた通路は使え

ない、ということになったんでしょ？

産業課長：人は歩けない。車だけ

住民B：そうすると、階段のどこ？

産業課長：つけるとすれば、あそこだと思います。

住民B：で、九州の客が仮にはなはなへ行くときに階段を上って降りてくるということ？

産業課長：原則

住民B：それはお客さん行かんで。現在のはなはなの売上げのメインはやっぱりフェリーの客なんです。ただ、単独的に三崎に観光にきて佐田岬灯台を見たい、はなはなが特別観光のメインとなる魅力のある施設やないんで、ポイントはフェリーの客やと思うんです。新たなこういった施設を作る場合、やはり、単独で三崎の魅力、フェリーのお客もそうなんですけど、やはり三崎そのものの、はなはなそのものの、観光的な魅力のある施設を僕は要望していたんですけども、設計をみると新たな施設にはなんか展望所と、風力発電と砂浜プール。そんなイメージ私わからないんですけど、これあとで説明してください。また、基本的な話はやっぱり単独で三崎にリピーターになろうと、行ってみたいと思う施設がほしいんです。ただこの施設、今の建物そのものを充実したとしても、その建物がはなはなのための魅力のある施設ではない。設計にいれてないでしょ？まあ、その辺のアイデアというものを皆さん町内、町民から募集していただいて、いろいろ出ていると思うんですけど、それも当然、予算の関係もあると思うんですけど、もっと魅力のある行ってみたいという施設のアイデアはなかったんですかね？ただ単にこの建物と施設を充実してもそこへ行くための他の魅力もあるものがなかったら事業協力者、大変だと思います。何かやっぱりこういった施設がほしいなと思うんですけど。まあ予算の関係もありますし、無理はいえないんですけど、もう一考していただきたい。以上です。

住民C：はなはなまつり実行委員長のCです。毎年5月3日にはなはなまつりをやらせていただいております。その関係の質問をさせていただきます。今までの花火と同じ規模になりますと、陸地10メートルくらいは立ち入り禁止となり、建物に引っかかりますので、来年度、再来年度以降同じことをしようと思ったらできないなという第一印象があります。広場、わくわく広場とおまつり広場ですね、これがセパレートになっていますよね。ということは、一緒のところでイベント開催するのは難しいつくりかなというイメージがわきました。同じことをやろうとしたらですね。図面の上のバス駐車場の広場の活用方法があるのかなという疑問をもっているところです。

産業課長：花火の大きさの関係で、立ち入り禁止になっているのですか？

住民C：そうですね。200メートルなんで、陸地10メートルまではトラロープを張って、立ち入り禁止ということを今年からしている。同じ規模をやろうとしたら。

産業課長：わかりました。花火の規模は想定していなかったんで、そこは一緒になって検討させていただきたいと思います。今のところですね、花火を見るのには、わくわく広場と、左の上の広場からみるのを想定はしておりました。それと、わくわく広場とおまつり広場ですが、こうみたらセパレートになっていますが、一階は軒下というかあいていますので、ここが中心部のステージがわりとなりまして、右でも左でもお客さんに向けてできるようになっており、雨天の時もこの軒下を使って、軽トラ市などのイベント、物産販売を利用できるように考えております。それと、一番上

の空白のスペースですけども、今のところ舗装だけして、フリースペースとしてだけ考えて、余裕を持たしているという状況でございます。

住民C：余裕を持たしているということでもう一点、去年の夏のアンケートのなかで、ドッグランとこの建物のモニュメント、ランドマーク的なものがほしいというアンケートがあったと思うんです。それに対して、今この図面のなかには入っていないという認識でよろしですか？

産業課長：ドッグランにつきましては、ご要望がアンケートの中にあっただけは確かなんですけども、協議していく中でドッグランのアイデアは消えたということでございます。モニュメントにつきましては、今のところこの石垣テラスの真ん中ほどに灯台モニュメントがございます。今のところ灯台をモニュメントでこちら辺に配置したいなというふうに考えております。

住民C：ドッグランのことでよろしいでしょうか？今全国的にサービスエリアで、今までなかったところも全てといっていいほどドッグランの施設を作っているんですよ。これは1兆円産業規模といわれるくらい、犬猫などのペット向けのサービスを、サービスエリアのいろんな所、中国道、名神、東名、第2東名など、いろんな所、私いろんな所に行ってるんですけど、今までなかった所すら設備つくってるんですけど、それに対して、他の所がやってるけど、うちがやらないという認識でよろしいですか？

事業協力者：今のドッグランのことですけども、当初ドッグランは設計の中にありました。で、私も松山と大阪と本社とお店をもっているんですけども、都会の人は犬を飼っている方が多いです。で、三崎の方へくるお客さんではあまりいないんですよ。私の本社の方ではですね。まあ、ドッグランをやるのであればいつでも、10メートルか5メートルくらいのエリアがあれば簡単にできるのであとの材料としていいんじゃないかというような考えで、流れた経過です。そして、そういう要望がでてきたので、そう予算もかからないと思うのでそこらを検討材料として今後考えたいと思います。

住民C：よくわかりました。予算はかからないのはよくわかるんですけども、ドッグランはビジネスになりますので。これ目指して犬を飼ってるファミリーカーとかそこに集まるんですよ。フェリーから降りるお客さんも必ず犬のリードつないで降ろしてくるんですけども、はなはなの敷地とかに降ろしてくるんですけども、結局リードを外せないんですよ。飼ってる人はリード外したいんですよ。うちもそうですし、同じ旅してると、同じような人たちが多くて、犬飼ってる立場として、もうちょっと考えてもらえると助かるなと思います。以上です。

住民B：直接はなはなの施設には関係ないんですけど、間接的に関連性があるので、一応要望というかお願いしておきたいのですが、一昨年から老人クラブの三崎支部で決議いたしまして、奉仕作業、ボランティア作業として、地元のために何かしようということで、イラスト、灯台イラスト、愛媛県のPRとしてみきゃん、魚、みかんといったイラストを防潮堤にたてれば、県外者にもよく見えるし、町そのものが、三崎そのものが明るくなるし、ぽっと見た感じイラストを見た感じ、イラストを描いていけば観光の一環になると思います。老人クラブで決議したんですけど、町の方へお願いして、ある程度の予算はできたのですが、ただ、ボランティアですから、老人クラブで取り組むんですが、実際絵を描くのは地元の小中高生の子どもたちに描いてもらって、それを先生にお願いして、地元の小中高へつなぐようにし、手続きして、場所は会長の私が段取りをしてきたので

すが、ただ町にもお世話になりまして、一応予算も取り組む意向で伺ったんですけども、ただ、町と県の方へ、あれは県の国の施設なんでしょ？だから、県の同意が必要ということで県へお願いしていただいたんですけど、やはり地元の同意が必要だということで、私、同意と承認と許可の意味がよくわからなかったんですけど、それを一応地元の区長へ言うまではよかったですけど、素直に同意してくれると思ったら、地元が同意しないんです。なんでやろうと私も理解できないんです。基本的に私らはあくまでもボランティアということなんで、決して予算的なことで地元には迷惑をかけない、全て地元の老人会で責任をもつということまで説明したんですけど、地元がどうしても同意できないと。それなら、地元が同意しないならそこまで無理してすることないんじゃないかということで今のところ放置しているんですけども、ただ町の方へお願いした以上、今後の経過によっては老人クラブでは無理なんじゃないかという意見もありまして、できればこういった事業を町で取り組んでほしいんですけど。少しは地元の PR になりますし、観光の施設になると思うんですよ。できれば町で取り組んでいただいたら、私たち老人クラブとしても、ボランティア活動をやりたい思いはあるんですけど、どうも老人クラブでは頼りないなという思いがみんなにあるようです。まあ、試算してもらったらそんなに予算はかかっていないんですよ。一つの絵を描くのに7、8万、7万です。10個買っても70万。かなりのスペースなので大きな絵になるんですよ。それと同時に、ペンキ、特殊なペンキでそれなりの費用がかかると思うんですけど、まあできれば検討していただきたいです。

産業課長：この施設に関しましては、わざと防潮堤を隠すような施設を考えておりますので。

住民B：これは隠す所やない、隠れない。ずっと東の方の、それとはなはな行く通路のところの防潮堤あるやない、はなはな行った人が帰りにも見える、そこで愛媛県の PR のみきゃんや魚とか灯台を描いていけば町外者の観光客が増えるって…。

産業課長：はなはな以外のところ？

住民B：そう。はなはな行く所の通路のみえるところ。そう、当然誰がみやすいか、みんなが見やすいところがどこか…。

町長：すみません、この場ははなはなに関する質問でお願いしたいんですけども。関連ということで、今日はそのご意見をおききさせていただいた、ということでおさめさせていただいたと思います。ただ基本的には地元の方と一緒にやって取り組んでいただく、ということが基本だろうと思っておりますので、その点も踏まえて今日はお伺いさせていただいたということでおさめさせていただきたいと思っております。

住民A：この施設の集客なんですけど、先ほども申しましたとおりフェリー客を取り込んでいくなら、動線の見直しをお願いしたいなというのが一つありまして、もう一つは目玉は、中四国一円からとなると宿泊を伴うので、日帰り圏内のお客さんを想定されていると思うんですけどこの施設の目玉はどういう風に考えているのか？お客さんを呼び込むための集客装置は？

産業課長：集客、やはり佐田岬にしかない価値観、それは自然であったり、食であったり、文化的な活動であったりすると思うんです。そういったところを発信していく拠点施設というのが今のはなはな、既存施設の立ち上がりでしたので、それを食であったりそういったところを強化することによって、それを増幅させていって集客を考えていきたいと考えております。

住民A：例えば、ハコモノを作った後のソフトの充実が大事だと思うので、私も町見郷土館の佐田岬みつけ隊に所属しておりますので、例えば、石垣をするのであれば石垣の継承歴史伝統について見れる場があったりとか、予約をすれば体験ができるであったりとか、あとはきらら館の上のビクターズハウスによく子供と行くんですけど、やはりエネルギーのことをちゃんと説明するような施設であってほしいし、子供たちが体験ができる、滞在時間をより多くとってもらえて、またきたいなと思うようなところになってほしいと思いますし、何よりも伊方町内の未来を担う子供たちが伊方町はエネルギーのまちだよ、もともとは銅山から始まって、原子力、自然再生エネルギーときてますけど、そういうことが胸をはっていえるような学校教育の一環にも使えるような、施設にしてほしいなと思いますので、よろしくをお願いします。

産業課長：ハードの施設整備とともに、そういったソフト事業にも力をいれて今後がんばっていきたいと思います。ありがとうございます。

住民B：新たな施設のなかに、トイレがあるんですけど、きれいなトイレを作ってください。当初、水洗のウォシュレットのトイレを要望していたんですけど、できたときにはあのと通りの水洗のウォシュレットのないトイレ、どんな設計をしたのか知らんけど、私は設計の時にウォシュレットの最新のトイレがほしい、できれば八幡浜のみなっとよりいいトイレがほしいと要望してたんです。まあできたらあんな粗末なトイレで、途中でウォシュレットにかえたら？当初からとにかくきれいなトイレ作ってください。トイレが一番。どこ行ってもトイレですよ。お願いします

事業協力者：せつかくの機会なので、まだ私どもが協力企業なので、ここに参加させていただいて、設計のなかで一緒に取り組んだなかなんです。弊社として今回の事業になぜ手を挙げたかということなんです。私は、旧瀬戸町出身で、今回いろんなみなさんの外部からの要求とかいろんなお声が聞こえて、このはなはな施設がもっと充実したもの、また訪れたいそういう施設をというなかで、弊社も瀬戸でやっているんで、何かこう、自分たちの10年後を考えた時に、今回手を挙げることによって、後悔しないことになったらどうかな、後悔するんじゃないかなという話で、チャレンジいたしました。そしてやっぱりこの施設、何が目玉かと言われます。やはり建物ができて、運営して、地域の方と一緒にこのはなはなをどう作り上げていくか、そこに成功のポイントがあると思うんです。この物産展、これから皆さんと一緒に一次産品を、佐田岬らしさの商品をどんどん並べて、あそこへ行けばこういうものがあるというそういうところが一つの目玉となると、それとやはり一番はどこへ行っても食です。その地域にあった、ここでしか食べれない、そういう食をですね提供できる、そういうものを目玉としてやっていけたらなと思っております。ぜひ地域の皆さまと一緒に1階の物産市場、ここをやはり協力をぜひお願いする時が来ると思うので、ご協力のほどよろしくお願いします。

5.閉会

副町長：長時間にわたりまして、貴重なご意見をありがとうございました。農家の方、漁家の方がいらっしゃらないとか意見が出ませんでしたので、いろいろと町としては町の製品の販売につきましては協力いただきたいと主題にあげております。冒頭に申し上げましたように過疎の対策、

少子化の対策を含めてですね、いい施設にしていきたいと思いますので今後とも忌憚のないご意見を頂戴いたしたいと思います。本日はどうもご苦労さまでございました。ありがとうございました。

(18 : 56 終了)